

2017年2月24日  
東京 P2M 研究会 代表幹事 内田淳二

PMAJ SIG 推進部会長殿

## SIG 新設提案書（設立趣意書）

### 1. 新設提案 SIG 名

イベントマネジメントSIG

「イベント主催者のためのプログラム・プロジェクトマネジメントガイドブックの開発」

### 2. 提案者(発起人)とメンバー

#### ◆ 発起人リーダー／副リーダー

内田 淳二 PMAJ 東京 P2M 研究会代表幹事

#### ◆ 発起人（五十音順）

鎌賀 信吉 PMAJ 東京 P2M 研究会幹事

藤澤 正則 PMAJ 東京 P2M 研究会幹事

渡部 寿春 PMAJ 東京 P2M 研究会幹事

#### ◆ アドバイザー（依頼中）

本田 祐嗣 ラグビーWCP2019 組織委員会 戦略・リサーチ局 部長

越川 延明 (株)セレスポ サステナブルイベント研究所 所長

この発起人4名をスタートとして、資格要件を定義し、3月公募をはかる。  
メンバーは、PMAJ 会員及び、各界イベントマネジメントの有識者とする。

### 3. 活動の目的

イベントは、何らかの目的を達成するために手段として行う行事、催事のことであり、その必須条件として、「①目的の存在②計画性③非日常性④場の創出⑤コミュニケーション表現・活動」があげられる（※基礎から学ぶ、基礎からわかるイベント）。また、マネジメントとしてみると、「イベントそのもの」と「イベントという事象」にわけることができる。

P2Mの見方・考え方から見ると「①ミッションがある②特性が類似（・有期性・不確実性・個別性・多義性・拡張性③3Sモデル（・サービスモデルを開催と定義すると、期間が非常に短い）④ステークホルダーが広範囲で複雑（自発的に動く・・・）⑤エンドバリューの考え方が異なる（開催時に集中する・・・）」の特性を有する。

本活動においては、より広範囲な「イベントという事象」をプログラムとして捉え、イベント主催者のためのプログラム・プロジェクトの新しいフレームワークの開発を行う。

イベントは、『時代と空間を再編成する事で、人々に新しい経験や感動をもたらし、新たな価値を創りだし長期にわたる文化創造の推進力となった』（イベント学会設立趣意書）」と認知されています。オリンピックやワールドカップのような国際的で大規模なイベントから学園祭や運動会のような小規模なイベントまで様々な形で行われています。

今日、あらゆる事業においてイベントマネジメントの重要性が増している。イベントは、プロジェクトの1形態でありながら固有のマネジメントが必要である。また、ゼロベースから始まる事例も多く、締め切りがあり、不確定要素も多く、様々な人や組織が関わっています。今回は、複雑な課題解決への知識体系であるP2Mを適用し、イベントマネジメントでの構想提案のフレームワークを開発します。

#### 4. 活動内容

- イベントの定義と特性の把握
  - 大規模から中小規模まであるイベントを分類整理  
(一回で終わるイベント、複数回または隔年で継続されるイベント)  
(一か所で行われる。複数の場で行われる)
  - 組織と人  
(強いつながりと緩いつながり)  
(自主的な動き) (サービスモデルで人が集まる)
  - ミッション、ビジョンとレガシー  
(何のためから入るが、ミッション・ビジョンが見えるのは、後から)
- ISO20121とP2Mとの親和性を評価
- P2Mを活用した新フレームワーク開発 (これがポイント!)  
(テーマは、複数回または隔年で継続されるイベントで創る)
- フレームワークの評価 (スポーツイベントの事例調査研究)  
イベント主催者側から見た・・・  
行政から見た・・・
- ラグビーワールドカップ2019日本大会の成功に向けた提言

次の事項を踏まえ運営方針を定める。

1. 会議体の設定
2. 活動目的と目標の確認
3. 会員名簿の作成
4. 会則の作成
5. 運営方針の取決め

6. RWC2019 プロジェクトの現状確認
7. SIG のスケジュール作成
8. 成果物

#### 場の構築と運用

##### リアルな場

- ・キックオフMTG
- ・ヒアリング
- ・定期的なMTG
- ・合宿
- ・クローズドMTG

##### ネットの場

- ・facebook の活用

### 活動成果の PMAJ へのフィードバック

次のような方式を考える。

- ① 活動状況、中間成果短針等の PMAJ ジャーナル、オンラインジャーナルへの発信
- ② 同じく、月例会での発表
- ③ ある程度まとまった活動成果の年次 PM シンポジウムでの発表
- ④ 段階ごとの活動報告書の作成
- ⑤ 活動報告書をベースとして対外発表を計画
- ⑥ ⑤と並行して、啓蒙および同行の志を求める為、出版に挑戦（当初より検討）

### 5. 活動期間

- 第1期            2017年4月から2017年9月  
第2期            2017年9月から2019年9月

### 6. メンバーの募集方法と運営ポリシー

- ① メンバー募集方法
  1. PMAJ HPを通じての公募と SIG メンバーとなった方の紹介
  2. メンバーは基本的に、イベントマネジメントに関心の高い方で次の条件を満たす方
    - (ア) 上記活動内容のどれかにインプットを提供できる方
    - (イ) 活動の記録を文書化するなど、SIG の運営に貢献できる方
- ② 運営ポリシー
  1. SIG 会合は月 1 回、発起人が合意した夜の時間帯に開催とし、中間の意見交換などは e-Mail または PMAJ のグループウェア（サイボウズ）を使用して行う。会合は SIG メンバーで会議室を提供できる企業を巡回して行う。
  2. 運営はメンバー間の Give & Take 原則に基づく。

3. 情報交換に当たっては、企業機密保護の原則に抵触しないよう留意する。
4. 話される内容は、オフレコとし、外部へは、事前の文書による了解なく、公開しない。
5. 折に触れて SIG 外の知見のある方を招いて創発セミナー・ワークショップを開催する。テーマや招待者によっては、公開会合も考慮する。

## 7. PMAJ にとってのメリット

- ・ これまでは、事業系の様々な事例での有効性と効率性は、調査研究、実践活用を行ってきた。下記のテーマに取り組みことにより、複雑な課題解決への知識体系である P 2 M の適用範囲を広げ、PMAJ の普及活動に貢献する
- ・ イベントはプロジェクトの一形態であり、そのマネジメントはプロジェクトマネジメントの応用となる。大規模なスポーツイベントは、複数の課題を総合的に最適化する必要がありプログラムマネジメントとして取り組む必要がある。PMAJ 会員やスポーツ団体の方々が集って、普遍的なマネジメント知識を開拓出来る。
- ・ そのことで、PMAJ での新たな知識の展開と、それを通じた PMAJ の社会貢献となる。
- ・ このような SIG の存在により PMAJ の会員獲得への PR 効果が期待でき、関連産業界への PMAJ のアピールとなる。

## 8. 予算措置

別途検討

以上